

ふたりの愛知用水殉職者と水利観音

はじめに

愛知用水水利観音への興味がわいてきたのは、水利観音そのものではなく、それを愛知用水の工事中に犠牲となった方々に久野庄太郎が手渡したというストーリーがそこにあるからだった。『愛知用水と不老会』には、久野が「自身が人柱に立って埋めてもらおうかとも考えたが、まず工事現場の土を集めて常滑の柴山青風先生に五百体の観音像を造ってもらって犠牲のあるたびに持って行って吊った」とある。

愛知用水殉職者 56 名の名前と住所を見ると、北は秋田・岩手、南は鹿児島まで、全国から工事に集まっていたことがわかる。思いがけず複数の水利観音がみつかったこともあり、いったいどの水利観音が届けられたのか、それはどのような手順で殉職者の家族に託されたのかを知りたいと思った。これは久野庄太郎の個人的なことのようにも思われるが、こうした久野のあるいはその周辺の細やかなやりとりが、これだけ大きな事業をおこなう底力となり、多くの愛知用水の支援者を生んでいったのではないだろうか。

愛知県職員・N 氏

愛知用水殉職者 56 名について、『愛知用水と不老会』に記された名前と住所を見てみると、そのなかにたまたま筆者の知り合い（1936 年生まれ）と住所が近い方があった。しかしそれ以上のことがわからない。愛知用水土地改良区事務局長（当時）・近藤文男氏に相談すると、『愛知用水と不老会』執筆の際、浜島辰雄が参考にしたと思われる佐分里池の愛知用水観音堂に収められている手書きの「愛知用水殉職各々霊位」のコピーがあることがわかり、それを見せてくださった。そこには各故人の情報が詳しく書かれていた。

ここでは名を伏せるが、該当する N 氏は地方技師として愛知用水第二課長の立場にあり、半田市で 1959 年の伊勢湾台風によって 35 歳の若さで無くなっていた。記された住所の近くに暮らすその知り合い尋ねたところ、名前を出しただけで、N 氏は愛知用水の仕事をしていて伊勢湾台風で亡くなったことを話した。またそのとき家族も亡くなったが、子どもがひとりだけ生き残り、その子を父（あるいは兄）が引き取り育てたということもわかった。

事情をよく知っていたのは、その知り合いがその地域のソロバン塾を経営しており、N 氏も通っていたからということだった。「賢くていい子だった」と話し、家族が伊勢湾台風で亡くなったということで、その子の前では伊勢湾台風の話は絶対に出してはいけないという気持ちが周囲にはあったという。

N 氏の現在の住所は分からなかったが、本家がわかったのであたってみたところ、転送されたのか、返信があった。亡くなった父親・N 氏については祖父が『(N 氏) を偲ぶ』と題したノート 2 冊を書き残してくれた以外はないということだった。私的なノートということで、ノートについては未見である。また、父親・N 氏の同僚がくれたのだろう、職場での写真をもっており、いくつかを送ってきてくださった。ただ、水利観音については知らず、こちらからお送りした水利観音の絵葉書を仏壇に供えたということだ。

「愛知用水 Memory」執筆者の父・Y氏

2021年、中日新聞広告局が通水60周年企画として愛知用水の思い出の作文コンクールをおこなった。その数点が新聞に掲載された際、そのなかに「亡き父と愛知用水」という作文があり、工事中に父親が亡くなったと書いてあった。富山県出身で出稼ぎ中の父が工事で亡くなったという文章だったので、こちらにあるリストで確認し、Y氏とわかった。岩藤トンネル工事中に1960(昭和35)年に27歳で亡くなった。

中日新聞に執筆者に連絡をとってほしいとお願いしたところ、すぐに連絡をとっていただいたようで、執筆者ご本人からこちらに電話をいただいた。

作文には落盤事故でなくなった父の家から母と自分は名古屋に出てきたので、父の供養をしてこなかった。50回忌になって新聞記事を頼りに事故現場に行き線香を立て、近くの寺に参り、また殉職者慰霊碑が木曾川の兼山取水口にあることを知って行ってきた。父の名前が碑にあったのを確認してその名前に触れてみた。ようやくつかえが取れたというもので、今回の作文募集でその10年前の出来事を思い出したというものだった。

私から問い合わせがあったことを知り、もう一度母と兼山取水口に行ってきたとのこと。周囲はきれいに草刈りなどされているけれど、碑が黒ずんでいたので磨いてきたと話していた。亡くなった父の家とは交流がなく、水利観音のことは知らないとのことだった。

水利観音は犠牲者に渡されたか

兼山取水口の話から、そこに水利観音があるとお聞きしたが、そこにある水利観音を知らなかった。愛知用水土地改良区職員(当時)・岡田昌治氏に聞いたところ、その水利観音は柴山清風のものではないと思うということだった。また、水資源機構がいろんな場所の碑をまとめた報告書(未定稿)を出しているとのことでした。見るとコンクリート像のようだ。ほかの場所にもそういう他の人が作ったものがあった。

犠牲者56人のうちの2人でしかないが、今回水利観音を受け取った当時のことがわからなくなっている可能性もあるものの、おふたりとも久野庄太郎から水利観音を受け取ったという話にはならなかった。56名のところに果たして水利観音が渡されたのかはまだわからないが、犠牲者56名の当時の住所の一覧や当時の所属先もわかることから、愛知用水土地改良区では愛知用水殉職者について、引き続き調査できればと話している。

(公財)愛知・豊川用水振興協会 研究員 達 志保